このまちで働くってどんな感じですか？

“学大社員”座談会

学大で働く人々は、まち全体をまるでオフィスのように活用しているらしい！
その実態を、それぞれ違ったスタイルで働く“学大社員”に話してもらいました。

株式会社バレッグス
太田諒さん
新卒で学大に本社を持つ不動産会社に入社。現在は経営企画室を担当。学大歴13年。

グラフィックデザイナー
北村陽香さん
出産を機に2024年秋からフリーランスに。1歳児を育てながら働くママ。学大歴は7年。

会社員
石川知彦さん
週の半分は会社に出社、半分は自宅でリモート。ビールと銭湯を愛する2児の父。学大歴は7年。

Yard Works Inc.
五十嵐千里さん
植栽を手掛ける会社で設計・施工を担当。オフィスは五本木、自宅は久我山。学大歴は4年半。

行き詰まったら散歩。歩けば心晴れるまち。

学大で働く人＝学大社員として集まってもらった4人。まず最初に全員の口から出てきたのは「仕事の合間の散歩がたのしいよね」という話。

五十嵐さん：私は植栽の設計・施工の会社で働いています。久我山の住まいから渋谷を通って五本木のオフィスに通っているんですが、**学大に着くとホッとします**。人がせかせかしていないし、スーツの人も少なくて緊張しない気がする。

北村さん：たしかに住んでいる人も混じっているから、穏やかな雰囲気なのかもしれない。怖い人もいないですよね。

太田さん：怖い人がいると目立ちますね（笑）。

五十嵐さん：仕事に行き詰まると外に出るんですが、お気に入りのお店もあるし、意外と植物も多くて、**歩いていて飽きないまち**だなって思います。

太田さん：わかります。うちは不動産会社で、本社が東口商店街にあるんですが、**部下との面談を歩きながらやる**ことがあるんです。ビル街だとさみしいけれど、学大はまちに活気があるので自然と会話も明るくなっていいんです。

北村さん：私も散歩大好きです。道が平坦なので、**ベビーカーでも動きやすい**。小さなお店でも子連れで行けるところが多かったり、公園も森みたいに緑が豊かで気持ちがいいですよね。

石川さん：僕はコロナ禍を経て週の後半だけ在宅勤務スタイルになりました。すぐ近くにうまいものがあるので、**在宅の日は外で昼食をとるのが楽しみ**。あと学大って商店街が一本道なので、往復すると必ず知り合いと会う。そこで道端で一言二言交わすのが、いい息抜きになります。

太田さん：学大って**気持ちを切り替える場所を見つけやすい**まちなんですよね。

“学大社員”座談会

大きなまちにはない インスピレーションがある

良い仕事をするには新鮮なインプットが必要不可欠。みなさんそれぞれに、アイデアの種になるような場所や人間関係がまちの中にあるようです。

北村さん：私は去年出産、最近フリーランスとして働き始めて、学大の自宅が職場になりました。装丁デザインの仕事がメインなので書店によく行くんですが、大きな駅まで行かなくても**資料がそろう**。かっこいい本は「**BOOK AND SONS**」、駅前の「**恭文堂書店**」はビジネス書から人文書まで幅広く置いてあるし、「**流浪堂**」で古い本を探したり、「**COUNTER BOOKS**」は本を見ながらカフェで打ち合わせもできる。個性のある小さな書店が多くて、本当に助かってます。

石川さん：大きなまちとは違うおもしろいものに会えますよね。僕は企画の仕事をしているんですが、**まちの人からヒントを得ることは多い**ですよ。特に飲食店の店主は人をよく観察しているので、話しているとみんなが同じことに興味を持っていたりして、生活している人の生の声を感じ取れる。外の大きいまちから受ける強い刺激も、こうしてご近所から受ける身近な刺激も、両方が間接的に仕事に生きている気がします。

太田さん：この対談もそうですが、**人との繋がりが自然にできていくのは学大らしい**ですよね。あと新しいことを面白がってくれる方が多いからなのか「今後こんなことやりたい」って恥ずかしがらずに言えるので、そこからまた繋がるが生まれる、という好循環ができているのかもしれません。

保育園充実。 働く子育て世代にも優しい

働き盛りの子育て世代も多く暮らす学大のまち。子を持つ親の目線からすると、このまちはどのように見えているのでしょうか。

北村さん：働く親世代が多いからか、学大には小さな**保育園がたくさん**あって、空きも多い印象でした。うちも 0 才児から預かってもらえたので、やっと仕事復帰ができて良かったなと思っています。

石川さん：僕のところは子どもがもう大きいのですが、上の子がまだ小学生だったときに迷子になってしまったことがあって。当時まだ住宅街にお店があった「**ヒグマドーナツ**」のお兄さんが、**子どもを保護してくれていた**ことがあるんですよ。

太田さん：それはすごい！いい話ですね。

石川さん：ヒグマさんには本当に足を向けて寝られないです（笑）。ほかにも近所の飲食店のオーナーさんと子ども同士が同級生だったり、子連れでお邪魔するお店があったり。家族ぐるみでお世話になっている場所も多いので、ちょっと大げさだけど、**まち全体で子どものことをみていてくれている**感覚があります。そんな環境なので、週の半分はまちで仕事をしていたいって思うんです。

北村さん：**子ども連れで行きやすいお店が多い**ですよね。駅前の「**Sanity**」でベビーカーを持ったママがビールを飲んでいたりして、そういうのもなんかいいなって。ベビーカーをひいている親はお酒を飲んじゃいけないとか、ジャッジされない空気感が学大にはあるんじゃないかなって思います。

学大はデパ地下いらず？ みんなのエッセンシャルズ

それぞれのスタイルで、まちというオフィスをフル活用して日々励まれている学大社員のみなさん。最後に「学大で仕事をするうえで、これだけは欠かせない！」というものを聞いてみたら、意外なまちの強みに着地しました。

北村さん：友人がやっているバー「**cano**」は**心の拠り所。**良いことも悪いことも、ぱっと行って家族以外の人に聞いてもらえる場所があるというのは貴重ですよね。2024年いっぱいで閉店してしまったのがすごく悲しいです。

太田さん：心の拠り所は大事ですよね。仕事で疲れると外でランチするのですが、「**まさひろ**」のオムハヤシライスがお気に入りで。マスターと話す穏やかな時間が、良い気分転換になっています。

石川さん：僕は金曜日のルーティーンが「**千代の湯**」で仕事モードをオフすることなんです。どんなに大きい仕事が残っていても、銭湯に入るとパチっとスイッチが切れる。仕事終わりにその足で「千代の湯」に入って、高架下の「**CHI-FO**」でビールを一杯。そのあと東急ストアで買い出しをしてから帰宅して、飲みながら家族の夕飯を作る、というのが一番理想的な週末への入り方。**もう金曜日じゃないけど、まだ土曜日じゃないその時間が自分にとって最高の贅沢**なんです。

全員：すてきー！

北村さん：「千代の湯」私も好きです。ぬるめの炭酸泉がいいんですよね。

五十嵐さん:私はお酒が飲めないんですが「cano」に行ってみたかったな。私の必需品は「流浪堂」で静かに本を眺める癒やしの時間。あと「**キジトラ**」のお菓子は自分へのご褒美みたいな存在です。

太田さん：そういえば学大はお菓子が豊富ですよね。会社の近くに「**Taisuke Endo**」ができてから手土産のバリエーションがさらに増えました。

石川さん：たしかに「**マッターホーン**」や「**御門屋**」など、**どこへ持っていっても喜ばれる手土産が揃っている**のはすごいことかもしれない。

五十嵐さん：お花屋さんもたくさんあるし。

北村さん：ワインのお店も多いから、私はよくボトルをおもたせにしますよ。デパ地下もいらないなんて。**学大って本当に働きやすいまち**ですね！